

万願寺トウガラシの収穫機械のための栽培様式の検討

万願寺トウガラシ栽培は、収穫や選別に時間を要し、全作業時間の6割を占めています。また、盛夏期のハウス内は40℃以上の高温になるため、収穫作業の労働強度が極めて高いことなどが、生産面積の拡大を妨げる要因になっています。

そこで、当センターでは収穫作業を自動で行うロボットの開発を進めており、ロボットが果実を視認しやすく、収穫しやすい栽培様式の検討を行っています。

4月6日にビニルハウスに万願寺トウガラシを定植し、栽培を開始しました。今後、主枝を切り戻す高さや本数を変えて管理し、収穫期の5月から11月にかけて果実の視認性と収穫量の調査を行い、果実の視認性に優れ、収益性の高い剪定方法を明らかにしていきます。



万願寺トウガラシの苗をビニルハウス内に定植